

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 総合診療医学教育研究分野 氏名 平野 貴大
指導教授氏名	花田 裕之
論文審査担当者	主 査 三上 達也 副 査 富田 泰史 副 査 中村 和彦
<p>(論文題目) Utilization of and barriers to a telemedicine system at a rural general hospital in Japan: a mixed methods study (へき地医療機関における遠隔医療システムの使用状況と利用者における障壁-混合研究法を用いて)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>近年、遠隔医療は高齢化が進む日本においても期待されている。本研究の目的は、へき地の総合病院に費用負担なく遠隔医療システムを導入した際の、システム使用に係る障壁を明らかにすることである。</p> <p>国民健康保険大間病院に、院内外で利用可能な医療用チャットシステムを導入し、医師全員にモバイル端末を配布した。研究期間は2018年5月から8月で、医師全員(6人)を対象に混合研究法の説明的順次デザインを用いて実施した。データ抽出は、研究終了後に量的データ、次に質的データの順序で収集した。量的データは、送受信されたメッセージから送信日時、送信者、受信者、メッセージの内容を抽出し、質的データは、6人全員に半構造化インタビューを実施して取得した。量的分析は記述統計を実施し、質的分析は逐語録を作成の上で、システム使用に関する不満足要因をコード化し、その項目をカテゴリーに分類した。</p> <p>量的分析では、合計179件のメッセージの送信を確認した。2人の医師はほとんど送信していなかった。質的解析では、精神的要因と物理的要因の2カテゴリーに分類される13のコードが抽出された。これらの要因の中で、本システムの利用頻度の低下に特に関連した要因を特定するため、消極的な利用者に特徴的な要因を考察した。その結果、日本のへき地総合病院において、初期費用・運用費用負担のない遠隔医療システムを導入した場合、現場の医療者による積極的な利用を阻害する2つの要因、「携帯への疑惑(メッセージの受信者が端末を携帯していないのでは、という不満)」、「孤立感(自分がメッセージを受け取らなかったという不満)」という精神的要因、「携帯性(端末の携帯性に対する不満)」、「通知(端末の通知機能に対する不満)」、「画像検索(画像検索機能に対する不満)」、「ユーザー認証(ユーザー認証機能の煩雑さに関する不満)」という物理的要因が同定された。</p> <p>本研究は、へき地医療機関における遠隔医療システムの使用状況と利用者における障壁を明らかにしたものであり、下記の学術雑誌にすでに受理されており、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	J Rural Med 2023;18(4):226-232